

舟橋聖一顕彰文学賞

舟橋聖一顕彰文学賞は、舟橋聖一さんの功績をたたえ、広く青少年の文学奨励をはじめとした教育・文化の振興を図るために設けています。18～30歳の青年を対象とした第27回「青年文学賞」には全国から58編の応募が、近畿各府県および滋賀県

に隣接する各県の小・中学生・高校生を対象とした第30回「文学奨励賞」には、171編の応募がそれぞれありました。

選考の結果、次のとおり受賞作品を決定しました。

佳作
麻生 水織さん
桜の季節
(小説)



最優秀賞
田中 里咲さん
海と舟
(小説)



問い合わせ先
市立図書館
☎ 22-0649
FAX26-0300

第1席
渡辺 碧空さん
チームワーク
(河瀬小学校5年)
(作文)



第2席
田井中 開斗さん
「戦争」について思うこと
(平田小学校6年)
(作文)



第3席
日和田 真観さん
お父さん 大すき
(河瀬小学校4年)
(作文)



第1席
中川 果林さん
身近に感じた選挙権
(東中学校2年)
(作文)



第2席
田部 はなさん
母から学んだこと
(東中学校1年)
(作文)



第3席
相川 美頼さん
父
(南中学校2年)
(作文)



第1席
福元 大輝さん
ぼくのイギリス体験記
(兵庫県・甲南高校1年)
(紀行文)



第2席
大橋 彩さん
善と悪
(愛知県・至学館高校1年)
(創作)



第3席
該当なし



第9回 舟橋聖一文学賞

舟橋聖一文学賞は、文学の振興を通じて、市民が豊かな心を育み、香り高い文化を築くため、彦根市の名誉市民である作家の故 舟橋聖一さんの文学の世界に通じる優れた文芸作品に贈ります。

この賞は、公募式でなく、基準日を設け、その基準日より前のおおむね1年間に新しく単行本として刊行

された優れた小説を対象としています。「舟橋聖一文学賞」が「文学奨励賞」「青年文学賞」に応募する人の刺激となり、創作活動の目標、励みとなるように、また、広く地域文化の振興が図れるよう期待します。

木下 昌輝さん プロフィール
1974年生まれ、奈良県出身。フリーライターを経て、2012年『宇喜多の捨て嫁』で第92回オール読物新人賞受賞。2014年に同作を表題とするデビュー作を出版し、第152回直木賞候補に。
最新作は、幕末の京都を舞台に、人魚の肉を食べて妖に取り憑かれる新撰組の隊士を書いた『人魚の肉』。



作者 木下 昌輝 さん

『宇喜多の捨て嫁』
(小説)

授賞式を行いました

11月28日に、舟橋聖一文学賞と舟橋聖一顕彰文学賞の授賞式を市内ホテルで行い、受賞者一人ひとりに市長から賞状が授与されました。(写真①、②。写真④は集合写真)

舟橋聖一文学賞を受賞した木下昌輝さんは受賞後、「滋賀県内の企業に勤めていた時期があり、彦根に何度も訪れた。名誉ある賞に恥じないように頑張っていきたい」と抱負を述べました。(写真③)

